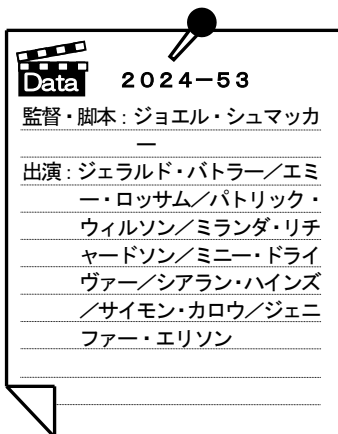




👁️👁️ みどころ

日本の「怪人モノ」としては「怪人20面相」が有名だが、クラシック音楽をはじめバレエ・オペラ等の総合芸術が花開いた近代ヨーロッパでは、『オペラ座の怪人』が有名だ。しかし、オペラ座の地下に本当に川が流れていたの？そして、怪人は本当にそこに住んでいたの？そうだとしたら、それは一体何のため？

そんな疑問は当然だが、ミュージカル『オペラ座の怪人』の舞台はすごかったし、それを映画化した本作では、クリスティーヌ役を演じたエミー・ロッサムの“天使の歌声”にうっとり！

冒頭のオークションのシーンから一転、1870年代のパリ・オペラ座では“怪人”はどんな役割を？そして、ある意味ではドロドロとした男2人と女1人の“三角関係”（のもつれ）の中で、歌姫に訪れるポイント・オブ・ノー・リターンとは？141分間、一方ではじっくり官能の世界に浸り、酔いしれながら、他方では、冷静に自分自身のポイント・オブ・ノー・リターンをじっくり探りたい。

■□■『キャッツ』も『エビータ』もいい。でも本作が最高！■□■

私は、高校時代に『サウンド・オブ・ミュージック』(59年)を見てミュージカルに夢中になり、続く『メリー・ポピンズ』(04年)等にもハマったが、その中で改めて『マイ・フェア・レディ』(56年)の魅力を再確認したり、『南太平洋』(49年)等のオスカー・ハマースタイン2世のミュージカルの良さも再確認した。日本におけるミュージカルは東宝が始めたが、それは英米の人気作品を日本人俳優が日本語のセリフと歌で演じるというスタイルだった。しかし、1953年7月に劇団四季が旗揚げし、一方では『キャッツ』(81年)

等の本格的ミュージカルをオーディションを経た本格的ミュージカル俳優で演じ、他方で、『異国の丘』（21 年）等の劇団四季初のオリジナルミュージカルをはじめると、私はそれにもハマってしまった。

他方、アメリカのミュージカルの作詞作曲で有名になったオスカー・ハマースタイン 2 世と同じようにイギリスで『キャッツ』、『エビータ』（76 年）などの大ヒットミュージカルを次々と世に送り出した天才作曲家がアンドリュー・ロイド・ウェバーだ。彼が自身の最高傑作と認めるミュージカルが、1986 年にロンドンで初演された『オペラ座の怪人』だ。劇団四季は『キャッツ』と共に同作をロングランの 2 枚看板にしているが、私とその映画版を最初に見たのは 2005 年 2 月 12 日。そのシネマ本の「見どころ」に私は次のように書いた。すなわち、

「舞台の「ミュージカル」でしか知らなかった『オペラ座の怪人』が劇場映画版に。新聞紙上での評判は耳にしていたものの、あのミュージカルは超えられないだろうと思っていたが・・・？」

そんな名作が「午前 10 時の映画祭」ではなく、今般 4K デジタルリマスター版として上映。こりゃ必見！

■□歌姫クリスティーヌの“天使の歌声”にうっとり！■□

アメリカのブロードウェイやイギリスのロンドンピカデリーサーカスでは、数十年間に渡ってミュージカルの舞台の傑作が作られ続けている。アメリカではディズニーのミュージカルも歴史が古く、名作を送り出し続けている。ちなみに、日本でも 2013 年に大ヒットした『アナと雪の女王』の主題歌を歌った May J. の歌声や歌唱力は素晴らしかったが、“天使の歌声”という形容詞にぴったりなのは、何といても 18 歳で本作のクリスティーヌ役を演じたエミー・ロッサムだ。私は、2005 年にはじめて本作を鑑賞した直後にオリジナルサウンドトラック 2 枚組を購入して iPod に取り込み、東京への出張のたびに聴いていたから、143 分の本作のストーリーとその音楽構成の全てが頭（耳）に入っている。

本作の冒頭の舞台は 1919 年のパリ。かつては豪華絢爛だったパリ・オペラ座は今は廃墟となっていたが、かつての栄華を偲ぶ品々がその劇場でオークションにかけられていた。そこに出席しているのは、老紳士ラウル・シャニュイ子爵（パトリック・ウィルソン）や、年老いたバレエ教師マダム・ジリー（ミランダ・リチャードソン）たちだが、彼らがオークションに出席しているのはなぜ？ また、なぜラウルは猿のオルゴール人形を落札したの？ さらに、謎の惨劇に関わったとされるシャンデリアが、なぜオークションの対象とされたの？

何度も CD と iPod で聴いたそんなセリフ劇が、目の前の大スクリーンでそっくりそのまま再現されてくことにびっくりだが、そこから時代は一気に 1870 年当時のオペラ座に引き戻されることに。そこで今リハーサルしているのは、オペラ『ハンニバル』。そのブリマ

ドンナはカルロッタ（ミニー・ドライヴァー）だが、しばらくすると、降板したわがまま放題のカルロッタに代わって、バレエダンサーのクリスティーヌが拍手喝采の中で主役のアリアを歌うことになる。すると、そこではあの“天使の歌声”を再び耳にすることができはすぞ。その天使の歌声を聞くと、オペラ座の怪人と共に私も心の中で大きな拍手を！

■□■パリ・オペラ座の伝統の下に本作の物語が誕生！■□■

日本では、徳川時代に流行した歌舞伎が今日でも日本の伝統芸能として愛され続けている。ヨーロッパのクラシック音楽の“父”はなんとといってもヨハン・ゼバスティアン・バッハ（1685年～1750年）だが、フランツ・リストを主人公にした『わが恋は終わらぬ』（60年）や、ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルトを主人公にした『アマデウス』（84年）等を見れば、近代ヨーロッパにおけるクラシック音楽やバレエ・オペラ等の総合芸術の素晴らしさがよくわかる。もちろん、それらの楽しみと芸術性は王族、貴族だけが味わうもので、庶民は無関係だったために、1789年のフランス革命が起きたわけだ。したがって、その点は歌舞伎や浮世絵が庶民に愛され、庶民の楽しみだった日本とは大違いだ。

しかし、イタリアのミラノにあるスカラ座は、1778年の開場以来、約250年歴史を持つオペラの殿堂だが、フランス・パリにあるオペラ座はそれより100年以上も前に設立され、何世紀もの間、同じく栄耀栄華を極めたそうぞ。それについては、バンフレットに収録されている、岸純信氏（オペラ研究家）の『華麗なるパリ・オペラ座』が必読だが、それだけの歴史と伝統があるパリのオペラ座なればこそ、『オペラ座の怪人』という、何とも稀有な物語が誕生したわけだ。しかし、オペラ座の怪人＝ファントム（ジェラルド・バトラー）とは一体ナニモノ？

本作の中盤、『マスカレード』の曲が歌われ、オペラ座を舞台に、様々な仮面をつけた紳士・淑女たちによる「仮面舞踏会」の華やかなシーンが登場する。ちなみに、1986年（第37回）の紅白歌合戦で、白組の司会を務めた加山雄三がトップバッターの少年隊が歌う『仮面舞踏会』を紹介する時、「おい！ 張り切って行こうぜ！ 紅白初出場、少年隊の『仮面ライダー』です！」と叫んでしまった姿にはビックリさせられたが、本作のスクリーンで見る紳士・淑女たちの「仮面舞踏会」の魅力をふんだんに込めた曲『マスカレード』を聴けば、当時のオペラ座の華やかさが実感できる。

しかし、その華やかさの裏で、クリスティーヌが連れて行かれたオペラ座の地下にはあんな風に川が流れ、ファントムのような怪人が住んでいたの？ 『レ・ミゼラブル』（80年）でも、街頭のバリケード闘争で傷ついた青年マリユスを背負ったジャンバルジャンが地下道に逃げ込んだため、地下道を舞台とした様々なシーンが登場したが、それは本作でも同じだ。しかし、パリ・オペラ座の地下に本当にあんな川や施設があったの？ もちろん私はそれを知らないし、知る必要もない。ただ、本作が作り出したファントム＝オペラ座の怪人という稀有なキャラクターと、そのバックとして最適かつ壮大な世界観をたっぷり味わえばいいだけだ。

■□■あなたにとってのポイント・オブ・ノー・リターンは？■□■

私が映画館で7回も見たミュージカル『サウンド・オブ・ミュージック』では、『ドレミのうた』が一番有名だが、私は『エーデルワイス』や『もうすぐ17才』が大好き。また冒頭の『サウンド・オブ・ミュージック』や、ラストの『クライム・エブリマウンテン』も大好きだ。『ウエスト・サイド物語』(57年)では『トゥナイト』、『マイ・フェア・レディ』では『踊り明かそう』、『レ・ミゼラブル』では『夢やぶれて』、『キャッツ』では『メモリー』等々、有名ミュージカルを代表する1曲がそれぞれ決まっているが、本作を代表する1曲を決めるのは難しい。

『オペラ座の怪人』というミュージカルを最も強く印象付けたのは、いかにも重厚なオルガンの音が鳴り響く中でシャンデリアが落下する劇的なシーンだ。また、クリスティーヌの“天使の歌声”を最も強く印象付ける1曲は、『シンク・オブ・ミー』だ。他方、本作は中盤から音楽の神様＝ファントム＝怪人と幼い頃からの恋人ラウル（パトリック・ウィルソン）の両者に心惹かれるクリスティーヌを巡る、男2人、女1人の三角関係のもつれのストーリーの核になっていくが、そこで歌われる曲が『ポイント・オブ・ノー・リターン』だ。「ここに来たからには 後戻りはできない」と歌うその曲は、一体どんなシークエンスで登場するの？パンフレットにあるジョエル・シュマッカー監督は、そのインタビューの中で「あの場面のエミーを見ていたら、まるで若き日のマリア・カラスのようだったくらい僕も驚いたよ。ラッシュを見た時、僕とジョエルは『こりゃ PG13 に指定しなくちゃね』と言ったくらいで（笑）。あの“ポイント・オブ・ノー・リターン”は僕が今まで見た映画の中で最もエロティックなシーンに仕上がっていたと思う。」と語っているが、その意味はあなた自身の目でしっかりと！そして、CD を購入し、歌詞カードを見ながら何度も学習してもらいたい。そうすれば、クリスティーヌにとっての“ポイント・オブ・ノー・リターン”がどこにあったのかが明確になるはずだが、さて、あなたの人生におけるポイント・オブ・ノー・リターンはどこに？

2024（令和6）年7月23日記